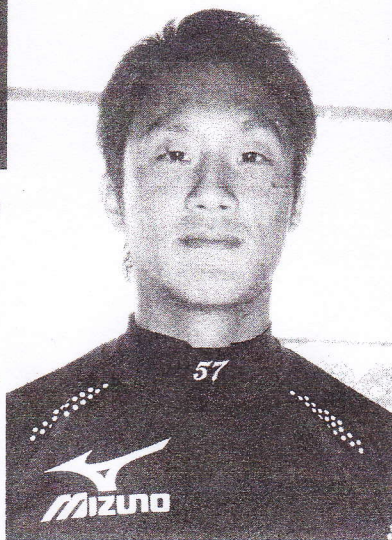


MARINES

Kohshiro Yamamuro

やまむろ・こうしろう●1987年7月14日
生まれ。神奈川県出身。183^{cm}82^{kg}。
右投左打。桐光学園高3年時に夏の
甲子園に出場するも腰痛で本領発揮
できず。青学大ではイップスを患ったが
克服し、4年時に自己最速154^{km/h}を記録。
10年育成ドラフト1位でロッテ入団。同
年7月29日に支配下登録され、8月5日
の楽天戦(Kスタ宮城)で一軍初登板。
10年成績は1試合登板、0勝0敗、防
御率0.00。二軍では11試合登板、3勝
1敗、防御率3.46。



未来へはばたく

NEW STAR INTERVIEW

次代のスター候補に迫る!!

#57 山室公志郎

[千葉ロッテ / 投手]

“関東No.1右腕”と呼ばれた

桐光学園高時代は腰痛に苦しみ、

青学大ではイップスを発症し投げられない日々が続いた。

だが、育成選手として千葉ロッテに入団すると、

わずか半月で支配下選手への扉をこじ開けた。

「投げられる喜び」を感じながら、

最速154^{km/h}の剛腕が覚醒の予感を漂わせている。

取材・構成＝茂原邦雄 写真＝高塩 隆(プレー)、BBM

「悪あがき」で勝ち取った スピード支配下登録

育成選手としてスタートした
プロ1年目でしたが、シーズン途
中で支配下登録を勝ち取り一軍で
の登板も果たしました。

山室 支配下登録されたのは期限
ギリギリで、あきらめていた部分
もあったのでビックリしました。
それから一軍でも1試合だけ投げ

させてもらい、充実した1年だっ
たなと思います。ファームでは最
初はシリウスやフューチャーズ、
後半戦からは二軍の先発ローテー
ションで投げさせてもらって、最
後はちよつと疲れも出ましたけど、
1年間やってみて自分なりに手ご
たえはあります。

7月29日に支配下登録されま
したが、そのときの状況は？

山室 (支配下の) 枠が残り1つ
で、メジャーから帰ってきた藪(恵
壹)さんがテストを受けていたの
で「これはもうダメかな」と思っ
ていました。ただ、ちょうど藪さ
んがピッチングをする日に僕もブ
ルペンに入って、たまたま藪さん
の隣が空いていたので「この際、
並んで投げてやろう」と。

勝負をかけたわけですね。

山室 勝負というか、悪あがきと
いうか(笑)。その次の日の新聞
に「藪の獲得見送り。若手選手に
チャンス」を「山室の支配下登録
を決定」みたいなことが書いてあ
って、そこで初めて知りました。

振り返ると、1年前の新人団
選手発表会は一人だけ3ケタの背
番号でした。

山室 あの時点でプロになったと
いう実感はなかったですね。1ケ
タ、2ケタを着けている選手との
違いを身染みるほど感じていて、

悔しい思いもありましたし。そこ
からいかに自分の評価を上げてい
くかを考えていました。

制球力が課題とされていたしま
したが、ファームではどのような取
り組みを？

山室 高橋(慶彦) 二軍監督には
よく指導していただきました。一
度「バックネットに向かって投げ
てみる」と言われて、「バックネッ
トに投げるコントロールはあるん
だから、そんな感じでホームに投
げる」と。それからは細かいコン
トロールは気にせず、とにかく自
分のボールを思い切り投げること
を意識するようになりました。

入団時から球速へのこだわり
を口にしていましたね。

山室 はい。それがなかったらこ
の世界に入らなかったと思います
し、そこで負けてしまったら自分
の持ち味がなくなってしまうので。
青学大4年時に最速154^{km/h}
を記録していますが、3年時まで
はイップスに苦しんでいたと。

山室 大学1年の夏過ぎごろから
急に投げられなくなって、それか
らは本当に苦しかったです。ピッ
チャーなのに投げられないという
状況で、野球をしている意味が分
からなくなっていた一時はやめること
も考えました。最後の賭けだと思
って病院を探して、治療を受け始

めてから良くなったんですけどね。
——その治療院のホームページには克服体験記が掲載されています。公表することに抵抗はなかった？
山室 イップスだったことが恥ずかしいとは思いませんし、誰でもなる可能性があるものですから。自分が克服した体験を同じ症状で苦しんでいる人たちに伝えて、少しでも役に立てばいいと思っています。

ます。よくからかわれますけどね。普通にキャッチボールをしているだけで「今日は調子がいいな」とか、ちよつとそれたりすると「またイップスか？」とか（笑）。
——トケタの背番号を手に入れて、気持ちに変化がありましたか。
山室 目指すところが変わりましたからね。一軍で活躍できるところまで来て、注目もそれなりにさ

れるようになり、自覚みたいなものは芽生えたと思います。
——プロになった実感も？
山室 それを一番感じたのは一軍のマウンドに立ったときですね。「ああ、ここでやってるんだな」という感じで。
——初登板の8月5日の楽天戦（Kスタ宮城）は、2回2失点。
山室 めちゃくちゃ緊張しました。

下（ファーム）とは雰囲気全然違いましたし、バッターの雰囲気も二軍にいる選手とはまったく違いました。
——試合後には「納得のいくボールは1球も投げられなかった」と。
山室 緊張で頭のなかは真っ白でしたから。その試合のことはあまり覚えてないんですけどね（苦笑）。
——昨シーズンの経験から得た一

素顔に迫る 解体新書

1 志

高校時代は帽子のツバの裏に「志」という文字を書いていました。自分の名前にも入っていますし、目指すところを高く持つてやっていたこと、今は書いていないですけど、もっともっと上を目指そうという気持ちは常にあります。

2 料理

小学生のころから料理が好きです。冷蔵庫にあるものを使って適当に作ります。もしプロ野球選手になつてなかったら調理師とかになっていたと思います。

3 サラダとスーパ

好きな食べ物にはサラダとスーパ。肉類はちよつとしか食べられないんです。ただ、最近は体を大きくするために食べています。

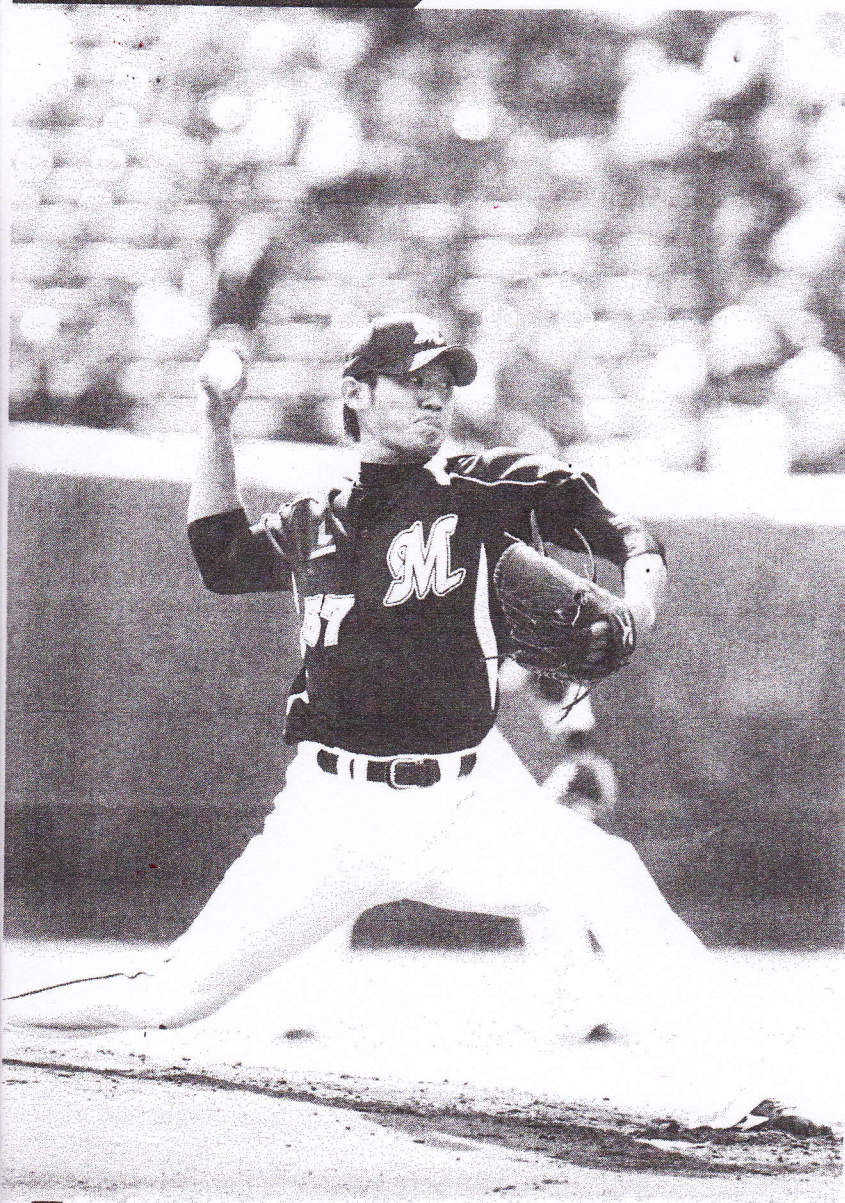
4 涌井秀章

西武の涌井さんとは高校で対戦しているの、もう一回投げ合っていたいですね。一軍に上がったときに小林宏之さんに連絡があったみたいで、覚えてくれているんだな、とうれしかったです。

5 ライバル

誰なんですかね。分かんないです。誰かをライバルだと思ったこともないです。人がこうだから自分もとかはあまり考えないです。自分は自分らしく、という感じです。

「球界を代表するようなピッチャーに。大きな花を咲かせたい」



番の収穫はなんでしょう。

山室 技術的にはまだまだ足りないところばかりですけど、そういう細かい課題を一つひとつ自分のなかで見つめられるようになってきたと思います。あとは、試合で投げられる喜びを感じた1年でした。高校や大学では自分自身も苦労しましたし、周りの人にもたくさん迷惑をかけてきたんですけど、そういう人たちに恩返しとして何ができるかといったプレーすることしかないですから。

——将来的な目標は？

山室 球界を代表するようなピッチャーになりたいです。高校、大学で花が開き切らなかったぶん、プロで大きな花を咲かせたいと思います。